

# 徳大病院・高須医師

# 胃分野認定医 合格

## 四国の医療機関初の女性



高須千絵医師

徳島大病院消化器・移植外科の高須千絵医師(39)が、2021年度の日本内視鏡外科学会の技術認定制度で、胃分野の認定医に合格した。胃分野で女性の認定医合格は四国の医療機関で初めて。合格率3割を切る難関を2度目の挑戦で突破。内視鏡手術の安全性や技術が認められた。

高須医師は、消化器・一般外科領域11分野のうち、胃分野の技術認定を申請し、ビデオ審査には胃がん手術の映像(約3時間)を提出した。この結果、患者の体内に入れた内視鏡や器具を操作してがん部位を切除する技術が、指導できるレベルに達していると認められた。

胃分野には218人の申請があり、合格者53人のうち女性の合格は5人だった。合格率は24・3%で、同領域11分野の平均(27%)を下回って

## 内視鏡手術の技術 評価

いた。

内視鏡手術はモニターで体内の映像を見ながらカメラや器具を操作するため、高度な技術が必要となる。徳島大病院は胃分野の認定医育成に15年ごろから力を入れており、現在は県内の認定医6人中5人(高須医師含む)が在籍する。

高須医師は17年ごろから本格的に助手として手術に関わり、先輩認定医のサポートを受けて執刀経験も積んだ。初めて挑戦した20年度の審査では不合格となったものの、執刀した手術の映像について認定医と意見交換を重ね、練習用機器による訓練を増やして技術を高めた。

消化器・移植外科で働き方改革が進んだのも奏功した。夜間にしていた打ち合わせを日中の勤務時間内に調整したり、診療体制を工夫して夜間や休日の呼び出しを原則なくしたりしている。これにより、2児の母として家庭の時間を確保しつつ、外来診療や入院患者の回診といった日常業務をこなしながら技術向上を図ることができたという。

高須医師は「サポートしてくれた病院の先生方に恩返しできた。今後も技術の向上に努める」と決意を新たにしている。働き方改革に取り組み始めた科の島田光生教授は「女性が男性同様に働ける環境を整えてきた成果が出た。今後も働きやすい職場づくりを進めたい」と話した。(南志郎)